

# わが街 Watching



▲出発の前に、力強く抱負を語る加治さん

開発途上国の未来に貢献を

## JICAシニア海外ボランティアとして派遣

独立行政法人国際協力機構（JICA）のシニア海外ボランティアとして、南部アフリカのボツワナ共和国に赴任する加治正光さん（弓削田）が、6月26日市役所を訪れました。

35年間警視庁に勤務していた加治さんは、本年7月から平成28年7月までの2年間、ボツワナ共和国警察人事部に配属され、警察行政全般における業務効率の改善や人材育成などを行う予定です。

加治さんは「ボツワナ共和国での警察行政の改善に向けた派遣は、前例がないと聞いています。難しいこともあると思うが、これまで培ってきた経験や知識などを活かして、少しでも貢献できるよう努力したい」と話しました。

世界にひとつだけの鉛筆立て

## 鎮西小学校で工作教室

6月24日、鎮西小学校で、機関車を模した鉛筆立てをつくる工作教室が行われ、同小5年生52人が参加しました。

この工作教室は、年末年始に道の駅おおう桜街道（大任町）に巨大門松を設置しているボランティア団体「手弁当の会（吉門仗代表）」が、この門松づくりに協力した小学校などを対象に、そのお礼として開催しているものです。

子どもたちは、吉門代表など同会会員4人の指導を受けながら工作に挑戦。くぎを打ったり、紙やすりで部品を削ったりしながらそれぞれ鉛筆立てを組み立てていきました。

参加した池永美来さんは「思ったより簡単にできた。色を塗ってから、家に持って帰って使いたい」と話しました。



▲手ほどきを受けながら、工作に挑戦する子どもたち

第52回こどもの交通安全大会

## 大浦小学校が最優秀賞を受賞

7月5日、大浦小学校交通安全少年隊が、交通安全活動に取り組む小学校を表彰する「第52回こどもの交通安全大会」で、学童交通安全運動実践優秀校の最優秀賞を受賞しました。

大浦小交通安全少年隊が、この大会で最優秀賞を受賞したのは、35回連続で通算36回目。交通安全少年隊指導班に所属している6年生31人が、全校児童の安全を守るため、春と秋の交通安全週間と毎月10日、20日、30日の毎朝7時45分から通学路や校門に立ち、登校指導を行っています。

6年生の相原龍也くんは「交通事故が少しでもなくなるように、これからも交通安全指導をしていきたいです」と元気よく話しました。



▲最上級生の6年生が、全校児童の安全をしっかり見守ります

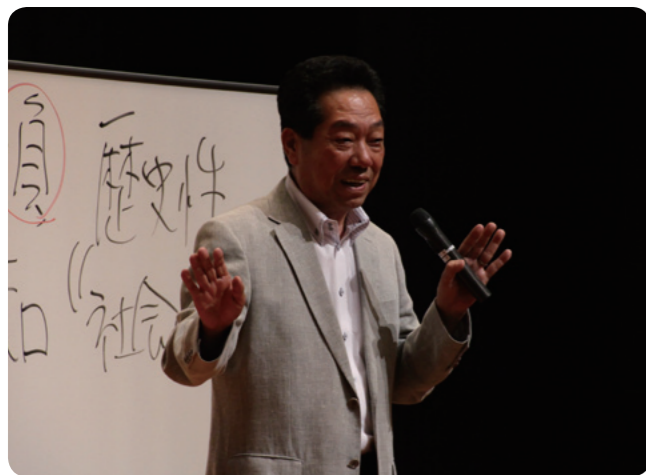
あるがままに、まるごとを認め合おう

## 同和問題啓発強調月間講演会2014

7月12日、田川青少年文化ホールで、同和問題啓発強調月間講演会が行われ、約300人が参加しました。

この日は、弓削田中学校放送部2年生の工藤美希さんと松田碧衣さんが司会を務め、市内の小中高校生などによる「字を覚えたら夕日が美しい～識字学級の話～」の劇の上演に続き、全国水平社創立宣言を起草した西光万吉（本名：清原一隆）さんの大甥（弟の孫）にあたり、奈良県御所市の西光寺住職の清原隆宣さんが「人の世に熱と光を」と題した講演を行いました。

清原さんは「人はそれぞれの色を持って光っているということを、お互いに認め合いましょう」と訴えました。



▲時折笑いを交えながら、わかりやすく講演する清原さん

亭主が変われば日本が変わる

## ゆめっせフェスタ2014

6月21日、田川青少年文化ホールで「ゆめっせフェスタ2014」が開催され、全国亭主関白協会会長の天野周一さんを講師に招き「亭主力の時代～夫婦円満の極意、戦わずして負ける～」と題した講演会が行われました。

講演会では、天野さんが「ありがとうをためらわずに言おう」、「ごめんさいを恐れずに言おう」、「愛しているを照れずに言おう」の愛の三原則などを紹介。天野さんのユーモアに富んだ話に、参加者は引き込まれていきました。

天野さんは「現在の日本には家庭円満が不足している。亭主が変われば妻が、家族が変わっていき、その結果日本が変わっていくのではないかと訴えました。



▲約310人が詰めかけた会場には笑いの渦が巻き起こりました

## シリーズ 田川市立病院だより

### 「透析ってなにをするの？」－透析センター



透析は、腎臓の機能が低下して体内の老廃物や水分などの処理ができなくなった場合に、血液の汚れを取る浄化を目的に行います。その方法には2つあり、透析装置に血液を送りこみ、人工腎臓を使って浄化する血液透析（写真参照）と、自分の腹膜を利用して、透析液をおなかの中に入れて浄化する腹膜透析があります。血液透析は、安定した血流を確保するために、シャント血管（動脈と静脈を体内または体外で直接つなぎ合わせた血管）を腕につくり、4～5時間程度の透析を隔日に週3日病院で行います。

腹膜透析は、おなかからカテーテルを通す管を入れる手術を受け、自分の生活パターンに合わせて、自宅にて自分で透析を行います。

どちらを選択するかは、医師と相談して決めることができます。いずれにしても、患者さん自身が食事の管理など日常生活に注意して透析療法を続けていくことが大切です。

透析センターでは、新規透析導入患者さんと急性期の入院を必要とする透析患者さんの治療を行っています。

●かわいい情報はHPで検索

田川市立病院 検索

クリック

●問い合わせ 田川市立病院（☎44-2100）